

高学歴中国朝鮮族の韓国への移動の実情と適応

国際学研究科博士後期課程 鄭 春 美

第1節 問題の所在と本論の目的

1 研究の背景—高学歴中国朝鮮族の韓国への大量移動

中国朝鮮族（以下、朝鮮族）の海外移動は量と質の面で共に重要なターニングポイントに達していると言える。長い間、朝鮮族の移動は低学歴の社会階層が中心を占めてきた。現在は、高学歴朝鮮族が大量に海外移動している。その移住先では圧倒的に韓国が高い比重を示す。なぜ学歴のある朝鮮族が大量に移動しているのか？韓国政府の方針は、高学歴朝鮮族の移動にどのような影響を与えているのか。高学歴朝鮮族は韓国社会にどのように適応しているのか。高学歴朝鮮族の韓国での長期滞在により、かれらの中国や朝鮮族に対する愛着や誇りは変化しているのか。

朝鮮半島から中国の東北地方に移住した朝鮮族第1世代、韓中国交樹立以降「コリアンドリーム」の夢を抱えて厳しい3D業種で働いてきた朝鮮族第2世代、最近では専門職をはじめとするホワイトカラー職に進出する朝鮮族は第3世代と呼ばれている。

経済環境に応じて、朝鮮族の居住地も変化している。居住環境は地下から小部屋へ、小部屋からアパートやマンションに引っ越すようになる。ソウル市内の朝鮮族のコミュニティータウンも、1990年代の九老区加里峰洞から、2000年代のソウル大林洞はもちろん新林洞、新大方洞、2004年には紫陽洞建国大周辺、そして京畿道水原駅付近、城南寿進洞、鞍山元谷洞、江南区（ソウルの高級住宅街）まで、中国同胞を中心に新たな文化が形成され中国同胞タウンへと変遷している。

2 移動の誘因—在外同胞資格（F4）

高学歴朝鮮族の韓国への移動を大きく促したのが、在外同胞資格（F4）の新設である。

「在外同胞の出入国と法的地位に関する法律」（在外同胞法、1999年）によって、在外同胞資格は1999年に設けられた。在外同胞法は、1998年に就任した金大中大統領が国外に暮らしている韓国民や外国籍を取得している全韓国系同胞の経済力、技術力その他社会文化的影響力を韓国社会に活用することを目指して制定されたもので、韓国系同胞も韓国民と同様の処遇を受けられることを可能にした法律である。学歴に関する条件として、当初は、韓国の大学の修士・博士課程に在籍する朝鮮族留学生に限って発給されていた。このため、ごく少数の同胞だけが在留資格を得るに過ぎなかった。

在外同胞資格は2007年までの実績はわずか8名のみであった。2010年からは4年生大学卒業生、公務員及びその家族にまで発給されることにより、2011年には対象者を拡大した。さらに、2012年の在外同胞資格の拡大実施が行われ（「外国籍同胞制度変更改善案内文」）、国内で情報処理、美容、自動車整備などの338分野で公認技能士以上の国家技術資格を取得した者は、在外同胞資格に変更することが可能となった（金、2014）。

2008年から2016年までをみると、年間入国者数は最大でも8,388人に過ぎず、累計でも39,866人に過ぎない。しかし、他の滞在資格から在外同胞資格へと変更した人数は2016年までに23万人を超え、2016年末時点での在外同胞資格滞在者数は275,342人（男135,004人、女140,338人）

で在留資格取得者の中では最も多くなっている。具体的には、4種類の資格に分けられるが、大学卒業生に発給される事務職の資格と短期滞在資格あるいは訪問就業資格者が指定範囲内の技能資格（例えば料理技能士、機械設計技師、自動車修理技師）を取得すると発行される「資格証同胞」の資格が高学歴高度人材の増加に大きく影響してきたと言える（李雪蓮・朴紅・坂下明彦、2018）。

NEVERに朝鮮族とキーワードで検索すると、まだ陰悪、犯罪、アイデンティティ、2等国民など悪いイメージの代名詞が出てくるが、朝鮮族3世による「悪くない朝鮮族」のイメージへと段々と変わっている。まだ朝鮮族と聞くと、建設現場の労働者や食堂の女性、家事ヘルパーに代表される3D業種の低賃金労働者を思い浮かべるのが一般的である。一方で、韓国に滞在している高学歴朝鮮族の中で、留学に来て学業を終え韓国社会に投身し、韓国の大企業や専門職に在職する卒業生が確実に増えている。朝鮮族留学生が多く集う大学街を中心にホワイトカラーの職業の朝鮮族のイメージが新たに形成されている。

高学歴朝鮮族3世の共通点として挙げられるのは、競争力と学力を持っていることである。彼らは海外留学経験の所有者であり、中国国内にいる時も名門大学を出ており、韓国に留学できている朝鮮族3世は修士課程か博士課程に進学をしている。韓国の名門大学を出ている朝鮮族3世と現在名門大学で腕を磨いている朝鮮族3世も少なくない。彼らは親世代の富の蓄積を土台として一躍変身ができる展望がある。

以上のように、韓国政府の査証の発行が大きな誘因となり、高学歴朝鮮族の移動は増え続け、韓国社会での定着化も着々と進んでいる。ホワイトカラー職もちろん専門職に従事する朝鮮族は確実に増えており、その従事する職業も多様化している現実がある。

3 研究目的

朝鮮族の韓国への就労目的の移動は、当初短期間働いたのちに帰国する出稼ぎ型が主流だった。しかし、韓国経済の弱体化によるウォン安で期待するような収入が得られない事態が生じたこと、韓国での生活の適応と受入政策の緩和、豊かな生活への憧れ、本国での経済活動機会の不足等により、長期間滞在と出国の繰り返しが続いてきた。滞在の長期化は、朝鮮族社会の在り方に大きな影響を与える。両親の一方あるいは両方が長期に不在になることによって生じる欠損家庭における留守児童生徒の存在は最も大きな問題として指摘されてきた。また、中国国内での朝鮮族人口の減少が進んでいるため、朝鮮族社会の崩壊と農村の過疎化による朝鮮族自治州の存続の危機に対する心配の声も少なくなかった。

朝鮮族移動人口のうち、近年、イノベーションと知識の創造を担える高度な知識やスキルを有する高度人材の韓国への移動が顕著であり、韓国で存在感を増しており、その背景にあるのが高学歴である。高学歴朝鮮族がグローバルな超国家的な生活を求めて移動する現象が大規模に生じている。従来ではビザの制限条件のために長期滞在ができなく、家族帯同も出来なかった。したがって、大半の朝鮮族は何らかの形で家族との分散を経験している。単に出稼ぎの目的で韓国へ移動するのではない高学歴朝鮮族の出現が新しい時代の特徴の一つでもある。それにより、朝鮮族社会の「コリアンドリーム」の意味や意義を再解釈する必要がある。

長年、朝鮮族の韓国への移動は、文字通り、家族や生活のための出稼ぎであった。韓国で得られる賃金は中国国内と比べて一般的に格段に高かったとはいえ、劣悪な労働条件を強要されることが少なくなかったことが各種調査から明らかにされている。また、生活面全般における適応も容易でなかったと言われる。基本的に

は、単一民族主義思想が強い韓国社会の中で、外国人労働者に対して否定的、批判的な態度をとる韓国人が少なくない（『外国人労働者人権白書』2001年）ことが関係しよう。戦前の朝鮮半島から中国へ渡った朝鮮族の歴史についての一般韓国人の不十分な理解も関係しよう。そして、低学歴や言葉（訛り）も関係する。

欠損家庭で育ち、不安を抱きながら成人になった留守児童のなかから、高学歴者が生み出されてきた。そのような時代背景で生み出された留守児童経験を持つ高学歴朝鮮族が、昨今大量に韓国へ移動している。かれらは、移動生活にどんな思いを込めて韓国へ移動しているのか？

高学歴朝鮮族にも韓国社会への適応問題はあ
る。学歴が高ければ適応問題は解消されるという単純なものではない。2006年に韓国政府は韓国が多民族多元文化社会へと転換すると宣言したが、韓国社会の外国人に対する差別的・排他的な特徴も短期間に変化するものではないだろう。仮にかれらの適応が比較的良好だとしても、それは様々な形での適応戦略の在り方が関係するだろう。また、高学歴朝鮮族の大量移動が朝鮮族社会に与える影響は、親・祖父世代のそれとは大きく異なる側面を持つと考えられる。なぜなら、かれらの海外移動の目的は、出稼ぎに留まらず、多様化しているからである。そして、高学歴朝鮮族が有するイノベーションや知識は、親・祖父母世代に比べて遥かに大きな影響を朝鮮族社会に与える可能性を秘めている。かれらは、欠損家庭、朝鮮族社会の崩壊、朝鮮族自治州の存続の危機など、朝鮮族社会が直面する問題や将来に対してどのような意識や意見を有しているのだろうか。

本論は、上記のようなことを問題関心として、韓国における高学歴朝鮮族に焦点を当て、以下の問いに答えることを目的とする。30年の歴史を有する朝鮮族の韓国への移動は、現在ど

のような展開を見せているのか。高学歴者身分としての移動人口は、どのような流れと変化を見せているのか。高学歴朝鮮族の移動の要因、過程、結果はどうなっているのか。高学歴者である朝鮮族自身は、受け入れ社会での生活に向けて、どのような戦略のもとで適応生活を送ろうとしているのか。韓国社会で、外国人移住者に対する差別や偏見が根強く存在しているなか、彼らはどんな思いを抱きながら現実と向き合い、どのような適応戦略を立てているのか。本論文では高学歴朝鮮族の移動過程や移動先での社会生活での適応状況を把握し、その背景と適応戦略を明らかにすることで、少数集団としての個人や家族の戦略を浮き彫りにし、高学歴朝鮮族の韓国への移動の背景と意味を出来るだけ多面的に問うことを目的とする。

4 研究方法

本論文における最も重要な概念は「適応」である。先行研究では、移動と適応に関する文献、論文の整理を行うが、本論文が最も参考にした徐芳の『中国朝鮮族移動人口の社会適応研究』（中央民族学校民族学2013年度博士論文）については詳述する。

韓国に滞在する高学歴朝鮮族の様々な側面における実態、適応状況、適応戦略については、2017年以降、ソウルでのアンケート調査とインタビュー調査から情報とデータを収集してきたが、本論は2回目のアンケート調査の結果とインタビュー調査結果の一部を使用する¹。

2回目のアンケート調査は、主に20代から40代の大学卒高学歴朝鮮族を対象とし、3回に分けて行った。2017年11月17日～12月11日と2018年1月23日～2月5日の2回は、現地を訪問し、調査票を配布・回収した。2017年11月～2019年9月28日までの調査では、ネット上で調査票を回収した。回答者は143人であったが、うち1人が韓国人であったので、これを除外

し、142人分を有効回答とした。

調査票の回収と配布は、韓国にある諸団体（韓国・北京中央教会、在韓青年連合会）及び各団体の紹介者と2003級高学歴朝鮮族同級生と紹介者の協力ももとの、人的なネットワークを活用して、①中国・瀋陽出身の高学歴朝鮮族同級生に手渡しで直接に配布して回収する方法、②韓国・北京中央教会成年組の高学歴朝鮮族に手渡しで直接に配布して回収する方法、③友人の紹介者も含め、家へ直接訪問配布し、回収する方法、④グーグルのネットワークを利用して回収する方法（高校時代の担任の先生に頼んで回答を収集する方法を含む）という4つの方法で行った。

インタビュー調査は、韓国滞在の著者の高校時代の同級生、友人の友達、高麗大学の博士前期と博士後期に在籍する朝鮮族大学生とその方の先輩後輩を対象とし、2016年7月23日～8月4日、2017年1月11日～2月13日にかけて行った。最新情報を得るため2020年3月～5月、2020年12月にかけて、ZoomとWeChatを利用としてのネットワークで対面した形を取って、追跡調査を行った。調査対象者は延べ総計25人であり、すべての人に対して2回以上のインタビューを行った。

第2節 移動と社会適応に関する研究

Leeは在韓朝鮮族同胞を4つのカテゴリー（エリート・知識人、中小自営業、出稼ぎ世代、自営業）に分けて、彼らの韓国社会での地位、コミュニティ構成、韓国社会に対する認識、適応するための戦略等に焦点を当てて分析した。結果として、エリート・知識人は、社会的名誉とより良い生活のため留学を選択し、韓国社会での適応過程では「朝鮮族留学生ネットワーク」、「留学生社員会」、「在韓朝鮮族青年連合会」のような特殊身分団体に所属しており、安定した定着生活をしているのが分かっ

た。留学期間中の社会・学業生活では韓国人からの偏見、差別や排他現象を受けていないが、卒業後の韓国社会での職場生活では、偏見、差別や排他現象を受けたことがある或いは偏見、差別や排他性を感じたとの回答が少なくないという興味深い結果が出されている。

在韓高学歴朝鮮族のエスニック・アイデンティティ形成に影響する要因に関しては、中国の国民性と韓民族のアイデンティティが関係し、韓国での社会生活と個人経験が大きく関係するとの結果が出されている。高学歴朝鮮族は、個人的な経験と周りの人から得た反応、そしてそれに対する自分の解釈に基づいて行動を選択する。更に、高学歴朝鮮族の大多数は、中国と韓国のどちらか一方に偏ることなく、両国に寄与する位置と役割を考慮した上で、第3の超国家的アイデンティティを形成していくとされている。

高学歴朝鮮族の国際結婚女性の韓国生活とアイデンティティの変化を調べた研究は、大多数の高学歴朝鮮族は韓国で職業を持っていて、自分の専攻を生かした職場で就職し、社会生活を続けていて、職場生活への満足度も高い結果があったと述べている。結婚生活では、夫婦関係で満足度が高く、重要事項は相談で決め、お互いに尊重している。親戚関係では異文化適応に差異もあるが、会話で解決できて、連絡が頻繁で、よい関係を維持している。

徐芳の中国朝鮮族の中国国内移動と社会適応に関する論文は、高学歴朝鮮族の韓国での適応問題を考えるうえで非常に参考になる。やや詳しくみておきたい。論文では、質的研究と量的研究を組み合わせた研究手法を用いて、中国国内の延辺朝鮮族自治州安図県、長白朝鮮族自治州、吉林市、蘇州市、北京などの地域で、民俗学、人類学的研究手法を用いたアンケート調査とインタビュー調査のフィールドワークを実施した。アンケート調査は約2年かけて、最終的

に519人のアンケート調査紙を回収した。アンケート調査紙の質問項目は、流入先では主に就労や修学への適応を、流出先では主に親の移動状況や留守児童の適応問題を調査し分析している。徐の注目の焦点は、彼ら自身の生活、仕事、家族のすべてが移動によって劇的に変化していることにある。そして、変化に対する各種の対応を徐は、社会適応あるいは簡単に生存の知恵と呼んでいる。

徐によると、朝鮮族の小中学生の保護者の半数以上、中学生や高校生の保護者の8割以上が韓国へ出稼ぎに行くのは、中国の収入が低く不安定な中、子供の教育費を稼ぐためである。出稼ぎ労働者の月収は一般的に中国国内労働者の6～10倍である。高学歴・若年層の回答者は省を跨いで移動する傾向があり、54%が東北三省を離れている。低学歴・高年齢の回答者は国境を越えて移動する傾向があり、仕事や収入が安定している回答者はあまり移動しない。教育レベルでの世代間上昇移動は明らかで、子供の世代は父親の世代よりも教育期間が長い。また、職業的地位の上位移動性は明らかであり、労働環境、社会保障の状況、公平感、雇用の安定性、労働力の強度の面では、子孫の方が前世代に比べて遥かに優れている。朝鮮族は教育を上方移動するための武器と認識している。朝鮮族の闘争は中国の中産階級への進出を助長してきたが、一方で、朝鮮族は家族の離散という代償を払ってきた。

朝鮮族の大半は、国内と海外を問わず移動が頻繁で、空間移動による世代間上昇型の社会移動を実現している。個人ベースでは、お金を稼ぐことと子どもを学校に通わせることが最も直接的な目的で、教育と消費が二大原動力となっている。国内の移動は、主に韓国系企業の進出や韓国人朝鮮族コミュニティの形成により促されてきた。高学歴朝鮮族ほど、大中規模都市に就職と生活がしやすく、キャリアの機会が広が

り、所得も高く、民族性や言語の優位性を生かして、民族的な結びつきのある社会的ネットワークを構築・維持出来ている民族はいない。ソーシャルネットワークは、相変わらず移動の最も重要なチャネルである。

国家、市場、資本と民族伝統文化という4つの力が、朝鮮族の国内外の移動と個体化を推進している。個体化の中心的特徴は、自分の人生に全責任とリスクを負うことである。朝鮮族は韓国へ行くためにあらゆる手段を使い、あらゆるリスクを冒し、その過程で自分の行動に責任を持ち、自立、勤勉、儉約、リスクテイクという価値観を貫き、まさに市場経済とグローバル資本主義経済が手を組んでいるなかで、個体化の道を模索する。

徐によると、朝鮮族は、中国や各国内での文化辺縁団体であり、彼らの適応戦略は多元的であり、民族的アイデンティティと離散国家の小民族集団の生存戦略の両方を強化している。朝鮮族は、結束のための重要な媒体であり絆である国民性をより重要視し、次いで宗教的な信仰心と霊魂が伝える価値観を重視し、不慣れな社会の中での生き残りと発展を試みている。彼らは言語や民族性、人的資本が優れているために優れたメンタリティを持っている。民族内部の団結力と明瞭な境界線があるからこそ、集団内では団結し、血縁、地縁、業縁、族縁、教縁、同輩集団をつなぎ目として濃密な社会ネットワークを紡ぎ、全体的な社会資本を高めている。朝鮮族は教育とグローバルな移動性を重視し、学校教育と国内外の移動（留学、研修旅行、仕事）を通じて、知識と経験を増やし、社会資本を増やしている。朝鮮族の強い社会資本、人的資本、強い自主性と回復力があるからこそ、知恵と能力と質の高い人的資本を向上させることで、世界のどこにいても社会に適応できるのである。朝鮮族の強い社会資本と人的資本、そして自立した逞しい朝鮮族の資質が社会

適応の鍵を握っている。

徐によると、今も進行中にある文化辺縁団体としての朝鮮族の移動は、常に社会適応問題と向き合うこととなる。コリアンドリームからホワイトカラー、専門職への進出など彼らを取り巻く周辺の人的環境、社会環境とも随分変わっている。様々な角度から十分な研究を蓄積し、継続的に考察し、検証していく必要があると結ばれている。

第3節 ソウルでのアンケート調査結果

1 調査の概要

調査票は、日本語版のほか、朝鮮語版に翻訳し、計2種類を準備した。1人のみ日本語の調査票で回答をし、他のすべての回答者は朝鮮語版を利用して回答した。

アンケート調査紙の質問項目は、基本情報と来韓後の社会生活・仕事に関する社会適応と文化適応状況に関する問題が中心となっている。

基本的に属性、韓国での生活、韓国人との付き合い状況、居住地域の経済環境と社会環境についての考え、その他適応や将来への展望および不安等について、全部で62問を設けた。

2 調査地の概要—「大林洞朝鮮族タウン」

調査地を大林（九老区庁駅）にした理由は、筆者が2010年初めて韓国に訪れた際に訪ねた場所であり、比較的地理的に精通していて、行政や団体からも協力を得やすいことと、毎回韓国を訪問した際に訪れている場所であり、一連の変化についても把握しやすいことが関係する。ただ、最も重要なのは大林という町に朝鮮族が集住していることにある。

韓国の首都圏には主に3つの外国人タウンが



図1 大林洞朝鮮族タウン

ある。一番目は仁川駅のチャイナタウンで、二番目は安山駅の外国人タウンで、三番目は大林駅周辺の朝鮮族タウンである。地下鉄7号線大林駅で降りて12番出口を出るとすぐ朝鮮族タウンの始まりである。朝鮮族タウンは職業紹介所と様々な中国語看板が豊富である。主に、中国東北三省の文化が普及されている。朝鮮族文化の発祥地と知られている。

大林（九老区庁駅）はソウル特別市永登浦區法定洞である。法定区域で、法律（慣習法）に指定された一定の名称と領域を指す区域である。伝統的な地域名称で、大部分は1914年行政区域統併合の時、定められて以来現在まで至る。

大林1洞2洞3洞で構成されていて、人口は77,296人（2012年12月末）で、面積は2.04km²である。一言でまとめると大林は朝鮮族の人口的な面からも、適応的な面からも「高学歴朝鮮族の移動による異文化適応」を研究する上で、フィールドとしてある程度代表性を有すると判断し、調査地として決めた。

3 基本属性と基本的な質問

表1 基本属性

項目	人数&比率					
【問1】性別	①男性		②女性			
	62人 (43.7%)		80人 (56.3%)			
【問2】年齢	①20代	②30代	③40代	④50代以上		
	44人 (31%)	88人 (62%)	10人 (7%)			
【問3】移動の目的	①留学	②就職	③旅行	④帰郷		
	30人 (21.3%)	63人 (44.7%)		2人 (1.4%)		
	⑤転職	⑥収入増加	⑦子女の教育	⑧技術交流		
	⑨仕事 (ビジネス関係)		⑩親戚訪問	⑪国籍取得		
			22人 (15.6%)			
	⑫結婚	⑬その他 (結婚)				
		1人 (0.7%)				
【問4】ビザ資格	①F4 在外同胞ビザ	②F5 永住権	③D2 留学	④D8 投資		
	97人 (67.8%)	22人 (15.4%)	5人 (3.5%)			
	⑤その他 19人 (5.8%)					
	(H2 4人 (2.8%)、国籍取得 12人 (8.4%)、F3 1人 (0.7%)、F1 1人 (0.7%)、旅行ビザ 1人 (0.7%))					
【問5】結婚の有無	①未婚		②既婚	③離婚	④死別	
	96人 (67.6%)		45人 (31.7%)	1人 (0.7%)		
【問6】滞在年数	①1年未満	②1～3年未満	③3～5年未満	④5～10年未満	⑤10年以上	
	10人 (7.1%)	48人 (34%)	55人 (39%)	21人 (14.9%)	7人 (5%)	
【問7】最終学歴 (無回答1人)	①中国・専門大学 (3年制)		②中国・四年制大学	③中国・修士課程	④中国・博士後期課程	
	22人 (15.6%)		81人 (57.5%)	5人 (3.5%)		
	⑤韓国・専門大学		⑥韓国・四年制大学	⑦韓国・修士課程	⑧韓国・博士後期課程	
	4人 (2.8%)		11人 (7.8%)	15人 (10.6%)	3人 (2.1%)	
【問8】現在のあなたの職業	①会社員・IT・エンジニア		②サービス・小売・保険・事務・通訳		③大学教員・研究・講師	
	33人 (24.3%)		43人 (32.6%)		16人 (12.1%)	
	④会社役員・弁護士・看護師・自営業・創業			⑤留学生		
	13人 (9.9%)			28人 (21.1%)		
【問9】現在、あなたの毎月の総収入 (ウォン)	①100万ウォン未満	②100～200万ウォン未満	③200～300万ウォン未満	④300～400万ウォン未満		
	21人 (14.8%)	61人 (43%)	37人 (26.1%)	8人 (5.6%)		
	⑤400～500万ウォン未満			⑥無し		
	5人 (3.5%)			9人 (6.3%)		
【問10】18歳を基準に、家族構成 (親) と離れた生活経験はありますか。	①なし	②1年以下	③1年～5年以下	④5年～10年以下	⑤10年以上	
	32人 (22.7%)	19人 (13.5%)	53人 (37.6%)	26人 (18.4%)	11人 (7.8%)	
【問11】海外渡航経験はありますか。	ある		87人 (61.3%)			
	ない		55人 (38.7%)			
【問12】韓国で生活や仕事を含めた社会適応状況はどうか。	①非常に適応	②比較的適応	③時々適応	④時々不適応	⑤不適応	
	23人 (16.2%)	50人 (35.2%)	53人 (37.3%)	14人 (9.9%)	2人 (1.4%)	
【問13】あなたの朝鮮語の熟練度 (無回答10人)	①凄く上手	②上手	③普通	④下手	⑤凄く下手	
	71人 (53.4%)	46人 (34.9%)	10人 (13.3%)	2人 (1.5%)	4人 (3%)	

表1は回答者の属性を示している。

有効回答者数は142人で、男女別内訳は、「男性」が62人 (43.7%)、「女性」が80人

(56.3%)で、女性の数が若干多かった。

年齢層は30代が88人 (62%)、20代が44人 (31%)、40代が10人 (7%)で、50代以上の回答

者はいない。年齢層では30代が一番多く占めていて、次は20代、40代の順になっている。在韓高学歴朝鮮族の内、30代の若者の移動が目立つ。

移動の目的では、「就職」が63人（44.7%）、「留学」が30人（21.3%）、「親戚訪問」が22人（15.6%）、「帰郷」2人（1.4%）、「その他」で結婚を目的とする1人（0.7%）がいる。

ビザ資格は「F4在外同胞」が97人（67.8%）、「F5永住権」が22人（15.4%）、「その他」が19人（5.8%）である。「その他」の詳細は、H2訪問就業が4人（2.8%）、国籍取得が12人（8.4%）、F3同伴が1人（0.7%）、F1訪問同居が1人（0.7%）、旅行ビザが1人（0.7%）である。予測通り、F4の在外同胞ビザが一番多かった。

結婚の有無では、「未婚」が96人（67.6%）、「既婚」が45人（31.7%）、「離婚」が1人（0.7%）である。

滞在年数では、「3～5年未満」が55人（39%）が一番多く、次に「1～3年未満」が48人（34%）と若干少なめで、そして「5～10年未満」が21人（14.9%）、「1年未満」が10人（7.1%）で、最後に「10年以上」が7人（5%）である。

最終学歴の回答者を見ると、韓国と中国の大学卒を合わせた人数が118人（83.8%）で、その他は修士20人（14.1%）と博士3人（2.1%）の学歴を有する。

仕事を5種類に分けて見ると、「サービス・小売・保険・事務・通翻訳」がトップで43人（32.6%）、次に「会社員・IT・エンジニア」が33人（24.3%）、その後は、「留学生」が28人（21.1%）、「大学教員・研究・講師」が16人（12.1%）、「会社役員・弁護士・看護師・自営業・創業」が13人（9.9%）の順である。

回答者133人の内、弁護士、看護師のような専門職に従事する高学歴朝鮮族が10分の1ぐらいいで、大学関係の仕事をする高学歴朝鮮族も10

分の1以上いる。ホワイトカラーの従事者が増えていることが確認できる。ITやエンジニア業に従事する高学歴朝鮮族は、大学で習得した専門を生かして、主流社会への進出を確実にしていて、朝鮮族の変化する様子を見せている。また、毎月の総収入（ウォン）では、「100～200万ウォン未満」が61人（43%）、「200～300万ウォン未満」が37人（26.1%）、「100万ウォン未満」が21人（14.8%）、「無し」が9人（6.3%）、「300～400万ウォン未満」が8人（5.6%）、「400～500万ウォン未満」が5人（3.5%）の順である。

18歳を基準に、家族構成（親）と離れた生活経験では、留守児童生徒としての経験を聞いている。経験なしは32人（22.7%）で、約8割の回答者が経験ありであった。期間は、1～5年離れて生活したのが一番多い53人（37.6%）、5～10年離れて生活したのが26人（18.4%）、1年未満が19人（13.5%）、10年以上が11人（7.8%）である。高学歴朝鮮族の約20%が親と共に生活してきており、80%近くの高学歴朝鮮族が留守児童経験者である。

海外渡航経験は「ある」が87人（61.3%）で、約6割が海外渡航経験を持つ。

韓国で生活や仕事を含めた社会適応状況については、「普通」が53人（37.3%）、「比較的良好」が50人（35.2%）、「非常に良好」が23人（16.2%）、「あまり良好ではない」が14人（9.9%）、「良好ではない」が2人（1.4%）で、適応状況は全体的に良好である。

4 適応に関連が深い項目

4-1 日常生活

図2は日常生活に深くかかわる6つの側面について、「全然問題ない」、「問題ない」、「どちらとも言えない」、「やや難しい」、「すごく難しい」の5段階評価で聞いた結果である。

■全然問題ない ■問題ない ■どちらとも言えない ■やや難しい ■すごく難しい

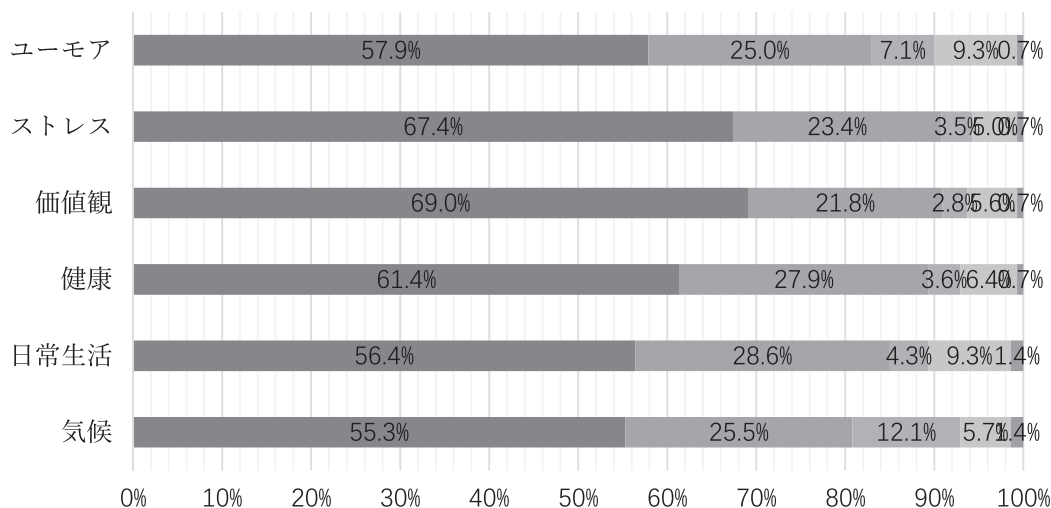


図2 日常生活

【問1】 韓国人のユーモアやジョークに対する理解では、「全然問題ない」が82人（57.9%）、「問題ない」が36人（25%）、「やや難しい」が13人（9.3%）、「どちらとも言えない」が10人（7.1%）、「すごく難しい」が1人（0.7%）の順である。

【問2】 職業や勉強に関するストレスでは、「全然問題ない」が96人（67.4%）、「問題ない」が33人（23.4%）、「やや難しい」が7人（5%）、「どちらとも言えない」が5人（3.5%）、「凄く難しい」が1人（0.7%）の順である。

【問3】 韓国人の価値観に関しては、「全然問題ない」が98人（69%）、「問題ない」が31人（21.8%）、「どちらとも言えない」が9人（6.4%）、「やや難しい」が5人（3.6%）、「凄く難しい」が1人（0.7%）の順である。

【問4】 健康では、「全然問題ない」が86人（61.4%）、「問題ない」が39人（27.9%）、「どちらとも言えない」が9人（6.4%）、「やや難しい」が5人（3.6%）、「凄く難しい」が1人（0.7%）の順である。

【問5】 家賃、交通、買い物などの日常生活では、「全然問題ない」が80人（56.4%）、「問題ない」が41人（28.6%）、「どちらとも言えない」が13人（9.3%）、「やや難しい」が6人（4.3%）、「凄く難しい」が2人（1.4%）の順である。

【問6】 韓国の気候に関しては、「全然問題ない」が79人（55.3%）、「問題ない」が36人（25.5%）、「やや難しい」が17人（12.1%）、「どちらとも言えない」が8人（5.7%）、「凄く難しい」が2人（1.4%）の順である。

日常生活には問題ないと思っている理由については、以下のような記述がある。

・朝鮮族が働くことが出来て、豊かな生活を過ごせるので、感謝しています。
 ・良いと感じられます（2人）。
 ・収入が増えた。
 ・努力しただけやりがいがある（2人）。
 ・疲れるけど満足感がある。
 ・十分に目的を達成して満足感を感じている。
 ・十分な価値を感じる。
 ・充実している。
 ・いいよ！満足していると思う。
 ・大変ですが、やりがいを感じています。

日常生活には問題があると思っている理由については、以下のような記述がある。

・生活のリズムが早い。・疲れた。・労働強度が強い。・忙しくて、時間がたりないと感じることが多い。・疲れて、社会がどのように回っているか全然分からない。・難しい。

生活リズムの速さと労働強度の面で問題を感

じていると言える。

4-2 韓国人との付き合いの状況

韓国人との付き合いの状況に関する6項目について、「完全に同意」、「同意」、「普通」、「反対」、「完全に反対」の5段階評価で答えてもらった。

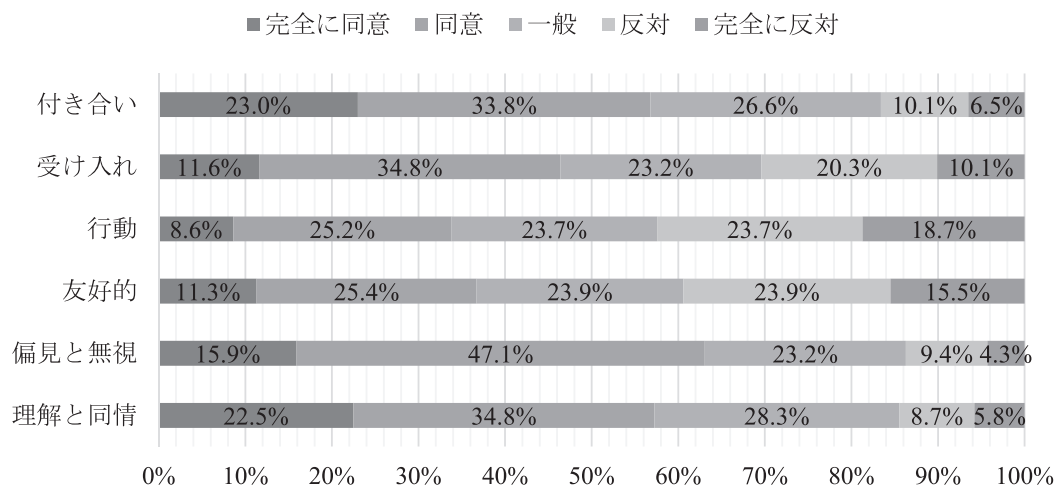


図3 韓国人との付き合い

韓国人は誰でも付き合い易いと思う（付き合い）では、「同意」が48人（33.8%）、「一般」が38人（26.6%）、「完全に同意」が33人（23%）、「反対」が14人（10.1%）、「完全に反対」が9人（6.5%）の順である。

韓国人は私を仲間、同僚、友達として受け入れてくれない（受け入れ）では、「同意」が49人（34.8%）、「一般」が33人（23.2%）、「反対」が29人（20.3%）、「完全に同意」が16人（11.6%）、「完全に反対」が14人（10.1%）の順である。

韓国人の考える事や行動が理解できない時がある（行動）では、「同意」が36人（25.2%）、「一般」と「反対」が34人（23.7%）、「完全に反対」が27人（18.7%）、「完全に同意」が12人（8.6%）の順である。

韓国人は友好的である（友好的）では、

「同意」が36人（25.4%）、「一般」と「反対」が34人（23.9%）、「完全に反対」が22人（15.5%）、「完全に同意」が16人（11.3%）の順である。

韓国人の偏見と無視が私を悩ませる時がある（偏見と無視）では、「同意」が67人（47.1%）、「一般」が33人（23.2%）、「完全に同意」が23人（15.9%）、「反対」が13人（9.4%）、「完全に反対」が6人（4.3%）の順である。

韓国人は外国人の処遇について理解と同情が欠けている（理解と同情）では、「同意」が49人（34.8%）、「一般」が40人（28.3%）、「完全に同意」が32人（22.5%）、「反対」が12人（8.7%）、「完全に反対」が8人（5.8%）の順である。

4-3 居住地域の経済環境と社会環境についての考え

図4は居住地域の経済環境と社会環境に関する

6つの項目について、「大いに満足」、「満足」、「普通」、「不満」、「大いに不満」の5段階評価で聞いた結果である。

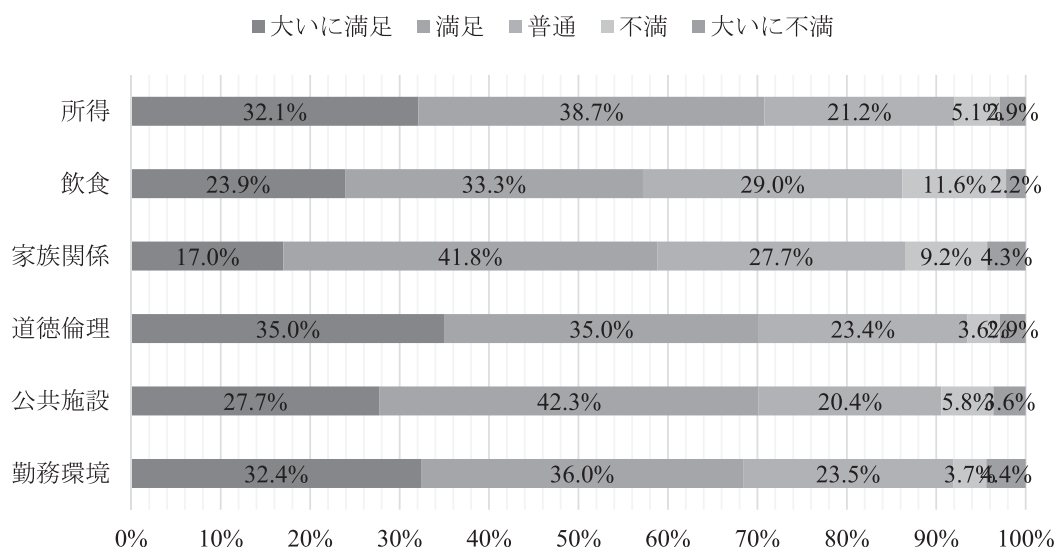


図4 居住地域の経済環境と社会環境についての考え

所得では、「満足」が53人（38.7%）、「大いに満足」が44人（32.1%）、「普通」が29人（21.2%）、「不満」が7人（5.1%）、「大いに不満」が4人（2.9%）である。全体的には大多数が満足（70.8%）しているのが分かる。

飲食では、「満足」が47人（33.3%）、「大いに満足」が33人（23.9%）、「普通」が40人（29%）、「不満」が16人（11.6%）、「大いに不満」が3人（2.2%）である。不満を感じる者は2割に満たない。

家族関係では、「満足」が一番多く59人（41.8%）、「普通」が39人（27.7%）、「大いに満足」が24人（17%）、「不満」が13人（9.2%）、「大いに不満」が6人（4.3%）である。全体的に半分以上が満足（58.8%）しており、不満は2割に満たない。

道徳論理では、「満足」と「大いに満足」が同じく48人（35%）で、「普通」が32人（23.4%）、「不満」が5人（3.6%）、「大いに不満」が4人（2.9%）である。全体の7割が満足と答えている。

公共施設では、「満足」が58人（42.3%）、「大いに満足」38人（27.7%）、「普通」が28人（20.4%）、「不満」が5人（3.6%）である。大多数が満足（70%）している結果である。社会地位、保障制度、治安、公共施設、サービス体系などについては高い評価が得られている。

勤務環境では、「満足」が49人（36%）、「大いに満足」が44人（32.4%）、「普通」が32人（23.5%）、「大いに不満」が6人（4.4%）、「不満」が5人（3.7%）である。勤務環境でも7割弱が満足と回答している。

4-4 就職活動において重視する要素

就職活動において重視する要素について、7項目に「大いに重視」、「重視」、「普通」、「あまり重視しない」、「重視しない」の5段階評価で答えてもらった。

表2 仕事に関する満足度

	大いに重視	重視	普通	あまり重視しない	重視しない	N
給料	10人 (7.1%)	39人 (27.5%)	75人 (52.8%)	17人 (12%)	1人 (0.6%)	142人
労働強度	5人 (4.6%)	30人 (27.5%)	62人 (56.9%)	12人 (11%)		109人
労働時間		42人 (53.9%)	31人 (39.8%)	4人 (5.1%)	1人 (1.2%)	78人
昇進機会		34人 (34.7%)	54人 (55.1%)	10人 (10.2%)		98人
将来性		30人 (30.6%)	55人 (56.1%)	13人 (13.3%)		98人
安定性	3人 (5.2%)	24人 (41.4%)	23人 (39.7%)	6人 (10.4%)	2人 (3.3%)	58人
福利厚生	5人 (7%)	31人 (43.1%)	25人 (34.7%)	11人 (15.2%)		72人

仕事に関する満足度の結果では、「大いに重視」では、給料10人（7.1%）、福利厚生5人（7%）と労働強度5人（4.6%）、仕事の安定性3人（5.2%）である。「労働時間」「昇進機会」「将来性」について「大いに重視」は0人である。

「大いに重視」と「重視」を合わせた回答は高い順に、「労働時間」42人（53.9%）、「福利厚生」36人（50.1%）、「安定性」27人（46.6%）、「昇進機会」34人（34.7%）、「給料」49人（34.6%）、「労働強度」35人（32.1%）、「将来性」30人（30.6%）である。

「あまり重視しない」と「重視しない」を合わせた回答は高い順に、「福利厚生」11人（15.2%）、「安定性」8人（13.7%）、「将来性」13人（13.3%）、「給料」18人（12.6%）、「労働強度」12人（11%）、「昇進機会」10人（10.2%）、「労働時間」5人（6.3%）である。

4-5 新生活に向けての情報収集の方法

表3は高学歴朝鮮族を対象に「知らない地域或いは国で学業或いは就職をして新生活をす

るなら、どんな関係を利用して情報を収集しますか」では、「友人関係」92人（64.8%）、「インターネット」76人（53.5%）、「仕事同僚関係」43人（30.3%）、「親戚関係」35人（24.6%）、「政府、学校関係」と「政府・学校」などの公共機関21人（14.8%）、「メディア」19人（13.4%）の順である。

表3 情報収集の方法

	N	%
① 親戚関係	35人	24.6%
② 友人関係	92人	64.8%
③ 学生友達関係	31人	21.8%
④ 仕事同僚関係	43人	30.3%
⑤ メディア	19人	13.4%
⑥ 政府、学校関係	21人	14.8%
⑦ インターネット	76人	53.5%

友人関係が最も重視されている。高学歴朝鮮族は個人的社会ネットワークを創り上げ、海外進出先でも友人関係を利用して社会適応生活を構築していると言える。次に、情報化が進むなか、インターネットを使った情報収集が重視されている。親・祖父母世代との大きな違いであ

ろう。次に同僚、親戚がくるが、利用率は約3割ぐらいである。最後にメディアや政府・学校などの公共機関である。従来の出稼ぎともう一つの違いでもある。

4-6 人間関係

人間関係に関する6項目に「非常に良い」、「良い」、「普通」、「良くない」、「悪い」の5段階評価で答えてもらった。

朝鮮族の人間関係をみると、友人関係、職場関係、夫婦関係、親子関係、子供との関係、隣

人関係のいずれにおいても、「非常に良い」と「良い」の割合が圧倒的に高い。未婚の回答者が多いため、夫婦関係と子どもとの関係の回答者は45人、24人と限られている。韓国人との主に人間関係は職場と地域で問われると言えるが、約3割の回答者が仕事に関する悩みを訴えていたのに対し、職場関係では「良くない」、「悪い」の回答は全くない。また、隣人関係でも同様な結果が出ている。人間関係の面での韓国社会への適応状況は全般的に良好である。

表4 人間関係

	非常に良い	良い	普通	良くない	悪い	N
友人関係	57人 (44.5%)	60人 (46.9%)	7人 (5.5%)	4人 (3.1%)		128人
職場関係	26人 (25.5%)	63人 (61.8%)	13人 (12.8%)			102人
夫婦関係	27人 (60%)	12人 (26.7%)	4人 (8.9%)	1人 (2.2%)	1人 (2.2%)	45人
親子関係	111人 (78.2%)	21人 (14.8%)	9人 (6.4%)	1人 (0.7%)		142人
子供との関係	18人 (75%)	5人 (20.8%)	1人 (4.2%)			24人
隣人関係	22人 (23.7%)	48人 (51.6%)	23人 (24.7%)			93人

4-7 朝鮮族の適応問題に関する意見と態度

朝鮮族の適応状況や適応する能力に関する5つの文章に対する意見と態度を「大いに賛

成」、「賛成」、「分からない」、「反対」、「大いに反対」の5段階評価で答えてもらった。

表5 朝鮮族の適応問題に関する意見と態度

観点・態度	大いに賛成	賛成	分らない	反対	大いに反対	N
朝鮮族は移動民族で、どこへ行っても適応力には問題ないと思う	48名 (33.8%)	72名 (50.7%)	19名 (13.4%)	3名 (2.1%)		142名
移動することにより現在の生活が以前よりレベルアップしたと思う	17名 (12.4%)	44名 (32.1%)	58名 (42.3%)	14名 (10.2%)	4名 (2.9%)	137名
移動生活や国外移動に対して抵抗感がなく好意的に受け止められる	30名 (21.6%)	66名 (47.5%)	30名 (21.6%)	11名 (7.9%)	2名 (1.4%)	139名
中国と韓国を比べた時に中国の生活により適応していると思う	42名 (31.3%)	57名 (42.5%)	29名 (21.6%)	5名 (3.7%)	1名 (0.7%)	134名
中国と韓国を比べた時に韓国の生活により適応していると思う	18名 (13.5%)	43名 (32.3%)	50名 (37.6%)	4名 (3%)	18名 (13.5%)	133名

「朝鮮族は移動民族で、どこへ行っても適応能力には問題ないと思う」に関しては、賛成72人(50.7%)、大いに賛成48人(33.8%)、分らない19人(13.4%)、反対3人(2.1%)であり、大いに賛成と賛成の合計は8割を超えている。「移動することにより現在の生活が以前よりレベルアップしたと思う」に関しては、「分らない」が58人(42.3%)で一番多く、賛成44人(32.1%)、大いに賛成17人(12.4%)、反対14人(10.2%)、大いに反対4人(2.9%)である。経済生活の面ではレベルアップしている人が大半と予想していたので、反対と大いに反対の合計が18人(13.1%)いたことはやや意外であった。「移動生活や国境移動に対して抵抗感がなく好意的に受け止められる」では、賛成66人(47.5%)、大いに賛成と分らないが30人(21.6%)、反対11人(7.9%)、大いに反対が2人(1.4%)であり、大いに賛成と賛成の合計が7割近い。朝鮮族の長い移動の歴史によって、移動生活や国外移動はある意味当然のことと受け止められている。

「中国と韓国を比べた時に中国の生活により適応していると思う」では、賛成57人

(42.5%)、大いに賛成42人(31.3%)、分らない29人(21.6%)、反対が5人(3.7%)、大いに反対1人(0.7%)である。「中国と韓国を比べた時に韓国の生活により適応していると思う」では、分らない50人(37.6%)で一番多く、賛成43人(32.3%)、大いに賛成と大いに反対18人(13.5%)、反対4人(3%)である。この2つの回答結果を比べると、中国の生活により適応している傾向ははっきり理解され、韓国の生活に関してはまだ良く分からない人たちの存在が伝わる。

4-8 韓国籍への変更に対する考え方

	N	%
①変更する	19人	13.4%
②考えてみる	16人	11.3%
③変更しない	49人	34.5%
④分らない	8人	5.6%
⑤無回答	51人	35.9%
N	142人	

「高学歴朝鮮族の優遇政策で韓国籍に変更できるとしたら、すぐ韓国籍に変わりますか」の質問には、無回答、考えてみる、分らない3

つの回答の合計が75人と約半数を占めた。簡単には判断できないことが示唆されている。明確な意思表示をしたのは68人で、その8割以上は変更しないと回答している。変更すると回答したのは2割に満たないが、迷っている人が少なくないことを踏まえると、今後は変更を希望する者が増える可能性はある。自由記述から、理由をみてみよう。

「変更する」

- ・子供と韓国で幸せに暮らすことが出来る。
- ・変更することを考えています。韓国の職場生活によく適応できていると思うから。
- ・韓国の国家発展に少しでも貢献したいと思います。私たちは、韓民族だから。
- ・親の老後の生活を考えると、変更が望ましい。
- ・変更するつもりです。簡単に就職出来て、子供も良い教育を受けられますから。
- ・韓国での生活が良いと感じます。
- ・韓国は過ごしやすい国です。
- ・暮らしに便利で気持ちいいから。
- ・はい。良い生活が出来ると思います。
- ・子どもと一緒に韓国でより良い生活に向けて頑張っている。
- ・韓国は生活するのに最適だと感じる
- ・仕事と子どもの教育、どちらも良い面がある。

「変更しない」

- ・適応が難しい。
- ・中国の国籍で生きていくことを誇りと思います。
- ・韓国はしばらく学業や仕事のために滞在する場所であって、一生暮らす自信がない。
- ・価値観の相違があるし、国の面積が小さ過ぎる。余裕のある生活が難しく、私にも子供にもあまり良い環境とは思えない。政府レベルの政策と国家理念も長期滞在者には不合理な点が多いと思います。
- ・中国朝鮮族として満足する生活を送っている。

る。中国の少数民族としての愛国心と民族心を持っている。私の国、中国を愛していて、私たちの民族、朝鮮族が誇らしい。私の願いは、延辺朝鮮族自治州が、マカオ、香港のように発展することであり、中国朝鮮族がもっと豊かになり、尊重されることだ。

- ・中国に親戚や友人が多くて、帰る計画を立てている。
- ・中国で生活するのがより便利である。
- ・子供の教育問題を考えると、変更しないほうが良い。
- ・韓国国籍には変更しない。生活、文化等の習慣に適応できない。
- ・韓国政府の政策の不安定性が気になる。生活らしい生活ができるウリナラ（筆者注：私の国）中国が良い。
- ・中国の国籍を持っていても、韓国での生活に大きな支障がないからです。
- ・永住権は考えて見るが、国籍変更はいたしません。どうせ国籍変更しても韓国人のような待遇を受けられないからです。
- ・変更する考えがありません。住むのに支障がなく、不便を感じないからです。一方、中国での活動も制限なくできて、国籍を変更する考えはありません。
- ・中国籍を取るのに難しいし、中国人で生きていくことを誇りとしていて、中国人のアイデンティティに感謝。
- ・中国朝鮮族として満足できる生活を送っている。
- ・中国の少数民族として愛国心と民族繁栄と共存する。
- ・私の国、中国を愛していて、私の民族、朝鮮族が誇らしいし、私の願いは延辺朝鮮族自治州が台湾・香港のように経済・文化・社会の様々な面で発展することだ。
- ・国籍を変更したとしても、韓国人とは違わし、韓国人にはなれない。
- ・将来のことが不確定なので。

- ・ビジネスに問題が出るから、中国籍のままにする。
- ・韓国で数年滞在しているが、良い所も多いけど、中国がより楽で住みやすい。

変更する理由としては、自分の仕事や子供の教育の充実、生活面での便利さなどが挙げられている。一方、変更しない理由としては、中国や朝鮮族であることへの愛着や誇り、文化・価値観の違い、あくまで一時的な滞在場所であるという認識、国籍変更しても韓国人と同じような待遇は受けられない、などが挙げられている。

第4節 2つのケース

事例1（インタビュー：2017年11月4日、2020年3月11日、2020年12月16日）、F4ビザ、女性、30代、中国・学士号、通訳・翻訳、サービス業、中国籍、未婚

出身地は中国遼寧省瀋陽で、高校を卒業するまではずっと瀋陽にいた。朝鮮族第三中学校を経て、朝鮮族第一中学校高校部から東北大学大連芸術学院を2010年に卒業し、2012年にすでに両親が滞在していた関係で韓国へ行った。韓国に着いて暫くソウルで通訳をしながら生活していた。2014年に数か月居住地近くのワーカルフリー店（Walkerhill Duty Free）で営業や販売の仕事をした。その後、5年程度ソウルにある日系企業で働いた。その間、何度か海外出張を経験している。現在、ソウルにある貿易会社で働いている。

韓国に移動してからしばらくの間、韓国語が流暢にできないことで、自分の意思を相手に十分伝えることが難しかった。韓国人の友人ができて、韓国語のニュアンスや言葉使いを教えることで、言葉の問題を克服した。

韓国の日常生活や韓国人との付き合いなどで不便や不適應と考えたことがないが、韓国人との間に見えないガラスがあると感じる。朝鮮族

の友達と対話することで、心の中の疑問や迷いを克服しようとしてきた。

年配の韓国人の朝鮮族に対するイメージは昔のままに留まっている傾向もあるが、最近では、朝鮮族に対する評価も上がっていると感じる。

仕事では、定時退勤ができなく、残業が当たり前のような状態で、会社内では随時同僚や社長の顔を窺わなければならないことにやや疲れや困難を感じているが、柔軟に対応することで乗り越えようとしている。

韓国での社会生活や経験を通じて、学士号では仕事のチャンスが広がらず、大企業への進出が難しいので、より良い仕事と生活を得るために、現在、大学院への進学を準備している。

事例2（インタビュー：2016年8月6日；2017年11月6日、2020年12月17日）、F4ビザ、女性、30代、中国・学士号相当、主婦、韓国籍、既婚

瀋陽第三中学校から瀋陽第二中学校高校部に進学した。その後、大連師範大学所属の成人教育学院で勉強をした。学士号はもらえなかったが、卒業証書はもらった。卒業後、朝鮮族の男性（後の夫）と一緒に韓国へ移動をした。韓国の安山にある貿易会社で、2011年から2015年まで事務職員として働いた。その後、約2年免税店で働いた。その間に結婚し、出産を二回経験した。子育てと家事などに追われた日々で、2018年に耐え切れず辞職をすることとした。現在は子育て一本に専念している。2人の子を出産した後に、国籍を韓国籍に変更した。

韓国人と比べると給料が安く、職種で直接差別されているわけではないが、給料や福利厚生で差別されてきたと語る。

大晦日に白い袋を使って小銭をあげる文化にカルチャーショックを受けた。中国では、埋葬の際の服やベルトは白や黒に飾ることにしてい

るから、受け入れづらいと語る。

食生活の違いや職場での差別など問題も感じるが、子どもの出産で子どもを軸とする生活に変化し、子どもを韓国人として育てる決意をした。そのために、両親からの経済的援助を受けて、マイホームを購入した。そして、国籍を韓国籍に変更した。

これからは韓国人として生きていくこととなり、中国に故郷がない世代に変わることを意味するかもしれない。

おわりに

高学歴朝鮮族は、より良い生活のため、自分の目標の実現のため、視野を広げるためなど、様々な理由で韓国へ移動する。親・祖父母世代の移動が家族の生活向上を目指すものであったのに対し、個人的な動機が強いと言える。より良い待遇での仕事や大企業での仕事を得るために、大学院進学などで知識やスキルを磨く学業面での戦略をとっている朝鮮族もいれば、韓国籍に変えて韓国人として生活していく生活戦略をとっている朝鮮族もいる。

今回の調査結果によれば、高学歴朝鮮族の韓国での生活・適応状態は、比較的良好である。かれらの移動も自分のために、自分の将来のため、自分の生活向上という個人的な性格を強めていると言える。従来の「コリアンドリーム」とは違う意味が指摘されていて、適応するための戦略も個人化・個体化が前面に出始めている。

適応をめぐる問題状況をより詳細にみていく必要があるが、一方で、高学歴朝鮮族の韓国への移動と定着が、中国の朝鮮族コミュニティを含むグローバル化する朝鮮族コミュニティの在り方や将来にどのような影響を与えるのか、朝鮮族コミュニティをどのように変容させていくのか、問いかけていく必要がある。

参考文献

金英花「中国朝鮮族の国際的な移動と子どもの教育—出稼ぎの変容と留守児童の問題から見る家族生活—」、宇都宮大学国際学研究科博士後期論文、2014年度。

徐芳「中国朝鮮族移動人口の社会適応研究」、中央民族大学博士論文、2013年。

鄭春美「在韓高学歴中国朝鮮族の国境移動生活の発展と行方」、『青春時代』ジャーナル、2020年1月

李雪蓮・朴紅・坂下明彦「韓国における労働力不足問題と外国人労働力の受入政策の展開：中国朝鮮族出稼ぎ労働者の就業を中心に」、農経論叢, 72, 55-66、2018年。

Cui, J. H. (2010). A qualitative study on adjustment process of highly educated Korean Chinese women in international marriage. *Studies of Koreans Abroad*, 22, 139-173.

Kim, Y. Y., & Kim, B. R. (2019). Ethnic identity issues of the highly educated Korean Chinese in South Korea: A study on the Korean Chinese mainly from Yanbian area. *Studies of Koreans Abroad*, 49, 35-70

Lee, J. E. (2012). Differentiation of social status and perception of the Chinese-Korean society in South Korea. *Economy and Society*, 96, 402-429.

¹ アンケート調査は2回行った。1回目のアンケート調査は、2017年4月上旬から7月まで、韓国・北京中央教会等と友人の協力を得て実施した。アンケート調査は、人的なネットワークを活用して、①中国・瀋陽出身の高学歴朝鮮族同級生に手渡して直接に配布して回収する方法、②北京中央教会所属の高学歴者に手渡して直接に配布して回収する方法、③友人の家へ直接に訪問・配布し、回収する方法、④グーグルのネットワークを利用して、知人に調査票を配布し回収するという4つの方法で行った。有効回答数は68であった。